

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民/公共】

1. 対象 2年

児童生徒の実態の概要 生徒間の学力差の大きいクラスである。教科書の内容を読んである程度理解できる生徒もいれば、まとまった文章を書けない生徒や四則演算ができない生徒もいる。

2. 単元名「ルールをつくり守る私たち 法と契約」（全5時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	法や契約の意義を理解するとともに、契約時の消費者主権を達成するために必要な概念や理論を理解する。また、契約などの紛争解決の手段を適切に調べることができる
思考力、判断力、表現力等	法律や契約の概念を踏まえて、実際の紛争や裁判の際にどのような結論を導くことが公正かを判断することができる。
学びに向かう力、人間性等	一人の国民主権を担う公民として、また一人の消費者として、求められる役割と責任などについて多面的・多角的に考察したり、深い理解につなげたりして、社会の発展に寄与する態度を身に付けることができる。

4. 言語活動

- ・小グループにて道德と法の違いを話し合う活動
- ・消費者に求められる力まとめて表現する活動

5. 本時の目標

契約の取り消しや解除の民法上の意義について理解し、その背景を考え表現することができるようにする。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

※本時における「解決したい課題や問い」を、実際に児童生徒に提示する表現で記入してください。
「インターネット通販サイトで購入したものをクーリング・オフで返品できるようにするべきでしょうか？」

考えるための材料

※各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせて考えられる材料を記入してください。
※解決したい課題を考えるために必要な資料、道具、教材などを記入してください。
①消費者庁「【動画】定期購入トラブル:デジタル社会の消費生活」の視聴
②独立行政法人国民生活センターHPに掲載の消費者トラブルをもとに作った資料
（「Web会議で無料カウンセリングを受けるつもりが高額契約に」、事業者が強引に契約を消費者に迫った事例）
③独立行政法人 国民生活センター「デート商法を恋愛ゲームで体験！キミならどうする！？？」
④情報の非対称性に関する資料
⑤クーリング・オフ制度の趣旨について述べられた資料

想定される活動

※考えるための材料を使って、児童生徒がどのようなことを考え、どのようなことに気付くのかを簡潔に記入してください。

- ①定期購入における悪徳商法の悪質さ、対策の必要さに気づく。
- ②事業所が優位な立場を利用して、契約を迫っていることに気づく。
- ③消費者を陥れて事業者にも利便な契約を結ばせようとしていることに気づく。またその悪質さからこの事例の契約は取り消しが可能になっている理由を考える。
- ④情報量の差で消費者が不利になってしまうことに気づく。
- ⑤現行のクーリング・オフ制度ではインターネット上の取引は対象外になっている理由に気づく。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

※設定する対話の方法（グループ形態、時間設定、留意事項など）を簡潔に記入してください。

※対話や思考のプロセスを想定し、児童生徒の言葉で具体的に記入してください。

資料③に関して、ペアワーク（3分程度）にて、互いの考えを確認する時間をとる。

「家に帰りにくくするのは正当なやり方ではない」「俺も引っ掛かりそう」

解決したい課題や問いに関する意見を互いに発表しあう。学級全体で賛成派と反対派の意見をいう場面を設ける。

賛成派「今回問題になっている定期購入に関するトラブル事例は、不意打ち的契約なのではないか」

反対派「インターネット上の契約はその気になればブラウザを閉じることができるのだから、クーリング・オフの趣旨とは反する」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

※設定した「解決したい課題や問い」に対する児童生徒のあらわれを想定し、児童生徒の言葉で具体的に記入してください。

賛成派「今回問題になっている定期購入に関するトラブル事例は、不意打ち的契約なのではないか」

反対派「インターネット上の契約はその気になればブラウザを閉じることができるのだから、クーリング・オフの趣旨とは反する」